

京都市障害者就労支援推進会議

障害者就労支援の連携のあり方検討部会及び

「福祉から雇用へ」事業所部会 合同部会

1 日 時 平成23年1月28日（金）10時00分～11時30分

2 場 所 本能寺文化会館 5階 雁

3 次 第

(1) 開 会

(2) 京都市挨拶

(3) 報告事項

- 就職された利用者と離職後の支援等について（アンケート結果）資料1

報告者：京都市

- 障害者（緊急）就職面接会の概要について 資料2

報告者：ハローワーク京都七条 障害者職業相談室

(4) 検討事項

- 離職者支援のあり方について

(5) そ の 他

(6) 閉 会

京都市障害者就労支援推進会議
障害者就労支援の連携のあり方検討部会

委員名簿

所 属	役職	氏 名
ハローワーク京都七条・京都障害者職業相談室	室 長	谷 口 信 行
京都障害者職業センター	所 長	田 中 正 人
京都障害者就業・生活支援センター	所 長	阪 田 理 恵
京都ジョブパーク (京都府商工労働観光部総合就業支援室)	参 事	水 田 須美男
京都市障害者職業能力開発等支援事業所	所 長	日 野 勝
京都府立京都障害者高等技術専門学校	校 長	泉 真 治
京都市保健福祉局 こころの健康増進センターデイ・ケア課	—	(欠 席)
京都市発達障害者支援センターかがやき	—	(欠 席)
京都中小企業家同友会	副代表理事	土 井 善 子
京都市就労移行支援事業所ネットワーク会議	代 表	高 橋 一 夫
	副代表	寺 地 ヒサ子
立命館大学文学部	—	(欠 席)
京都市保健福祉局 障害保健福祉課	課 長	居 内 学

(順不同, 敬称略)

(事務局) 京都市保健福祉局 障害保健福祉課

京都市障害者就労支援推進会議
「福祉から雇用へ」事業所連絡部会

委員名簿

所 属	役職	氏 名
F S トモニー	施設長	高 橋 一 夫
花水木	所 長	戸 田 則 子
桂の泉学園	—	(欠 席)
タイム・ワークサポートセンター	—	(欠 席)
京都市紫野障害者授産所	支援員	坂 吾 郎
洛西寮 (身体障害者福祉施設長協議会)	施設長	田 尻 彰
京都市いたはし学園 (知的障害者福祉施設協議会)	施設長	寺 本 眞 澄
楽々堂 (精神保健福祉施設協議会)	施設長	三 木 佐和子
上京ワークハウス (きょうされん京都支部)	副代表	藤 井 嘉 子
京都市保健福祉局 障害保健福祉課	課 長	居 内 学

(順不同, 敬称略)

(事務局) 京都市保健福祉局 障害保健福祉課

就職された利用者と離職後の支援等について

- 1 調査日：平成 22 年 12 月 21 日（火）午前
- 2 調査方法：各就労系事業所等宛に FAX で照会。未回答には再度、照会。
- 3 調査施設：125 施設
- 4 回答率：80.0%（100 事業所／125 事業所）

5 分の 4 の事業所からの回答があり、今回のアンケート調査の結果が、京都市内の事業所全体のおおむねの傾向である。

		調 査 施 設 数	回 答 施 設 数	離職		備 考
				JPS	相談例	
新体系・就労継続 AB, 就労移行		53	46	6	15	
旧法	身体障害者授産施設等	8	7	1	3	
	知的障害者授産施設等	17	17		4	
	精神障害者授産施設等	3	2		1	
小規模通所授産施設	身体障害	4	3			
	知的障害	1	1			
	精神障害	2				
地域活動支援センター	身体障害	19	11		2	
	知的障害					
	精神障害	18	13		4	
合計		125	100	7	29	

5 分析：

(1) J P S 解雇事例

市内事業所から J P S への就労は 7 ケース (6 事業所)。

いずれの利用者も、元の障害福祉サービス事業所に戻って通所している。

同事業所では、本人からの相談を受け、職安等へ同行するなど支援をしている。

今回の J P S 解雇問題では、同事業所が利用者のアフターフォローをしている。

施設種別	人数	対象種別	内容
就労移行支援	1 人	知的及び身体	再就職に向けた相談があり対応している。京都障害者就業・生活支援センター、京都ジョブパークへの登録や活用の助言、支援を行った。失業保険の手続き等、離職による手続に関する助言
就労移行支援	2 人	知的障害	翌日より再登録してもらいました。1 人は施設外就労にて生活リズムを保ちながら訓練しています。もう 1 人はジョブカフェの「ふるさとハローワーク事業」の受講をすすめ、相談にも同行する等の支援を行っています。
就労継続 B 型	1 人	知的障害	12 月 1 日より復帰。諸手続き、再就労に向けての支援・精神的なダメージの相談支援
就労移行支援	1 人	知的障害	会社倒産についての説明会に同行。今後のことについて相談 (就労、施設の再利用を含めて)
就労移行支援	1 人	知的障害	母親の方から、「倒産し解雇になった」との連絡があり、すぐに事業所の方へ来てもらった。一般就労されてからようやく仕事にも慣れ就労意欲も増してきていたので、本人の気持ちが落ち着いた時点で事業所の方の通所を勧め、12 月 6 日から通所されることとなった。
身体通所授産	1 人	身体障害	11 月 26 日 (金) より通所再開。本人及び家族の相談支援を行っている。

(2) 相談事例

○就職後、相談を受ける事業所の割合

約4分の1の事業所(23.2%, 29事業所)で離職者からの相談を受けたことがあった。一般就労後に、元々の事業所に相談もあるため、職場定着のためには、事業所が相談支援を継続することが大切である。

○障害別の離職

元々企業に就労している障害者の障害種別ごとの割合が不明のため、一概には言えないが、今回の調査では、知的障害者の割合が多かった。

障害別	身体障害 17.3% (5事業所)
	知的障害 58.6% (17事業所)
	精神障害 24.1% (7事業所)
	合計 100.0% (29事業所)

○離職の原因

一番の離職原因は、職場の人間関係であり、職場内で、障害者の一般就労に係る理解が大切でないかと思われる。

離職原因	事業所の経営不振 24.1% (7事業所)
	仕事のミスマッチ 17.3% (5事業所)
	職場の人間関係 44.8% (13事業所)
	健康 6.9% (2事業所)
	その他 6.9% (2事業所)
	合計 100.0% (29事業所)

○相談支援の内容

相談を受けた事業所が、再就職のため関係機関と連携し、必要に応じて、職安に同行する等の場合もあり、また、再就職の準備ができるまで通所を再開している場合もある。

障害者にとって事業所は相談先として大切であり、再度、一般就労するため、重要な役割を果たすことが分かる。ただ、関係機関と十分連携できていないのではないかと思われる事業所もあり、今後の課題である。

施設種別	障害種別	離職の理由	相談支援の内容
就労移行支援	身体障害 (視覚)	職場の廃業	電話による再就職の相談や生活の相談
就労移行支援	精神障害	続けられなくなり離職した	なぜ、続けられなかったのか、振り返りを行い、求職情報等を一緒に見る。
就労移行支援	知的障害	作業環境が厳しく、つらい	「辞めて、もう一度就職活動したい」という相談を受け、再度登録をしてもらい、訓練をしながらハローワークや就業生活支援センターと連携し、再就職へつなげました。(現在も在職されています。)
就労継続A型	広汎性発達障害	社会性の少なさによる疎外感・対人関係の不得手	2年余り勤務したが、前記の理由が調子が悪くなると繰り返され、事業所職員を集めて障害特性等の説明を行った。しかし、最終的に本人が限界を訴えたため、担当医と相談の結果、今後の本人のためにも尊重して退職することとなった。本人の希望もあって、現在は施設を再利用中。
就労継続B型	知的障害	仕事が雑にしかこなせていないと...	職安の障害担当者に同伴報告し、次の就労先について検討したが、当面、事業所内の作業に従事していただくこととし、再就労を取り止め終結
就労継続B型	知的障害	健康面に対する誤解	母親が結核の疑いのあることを職場に伝えると本人の健康状況の確認があった。診断書を出し、本人の健康にも母親の健康にも問題はなかった。しかし職場の雰囲気が悪化し、自主退職となる。
就労継続B型	知的障害	人間関係でうまくいかないのが主流です	相対的に注意されるのが苦手なようで、怒られたように思ったり、また気持ちや仕事の切り替えが難しく、職場へ出向くこともありましたが、結局、うまくいかなかった方はたいてい施設に戻ってこられています。これも共同作業所時代のことで、もう5~6年から10年ぐらい前のことです。

就労継続B型	知的障害	職場内でのいじめ（セクハラ）	上司のセクハラを受け、笑顔がなくなり、ひきこもりとなった。元気になるまで通所させてほしい。⇒2年で元気を取り戻し就労。 その後6カ月でいじめにあい、同じ相談があり通所。元気になり就労。その後、同じところで11年間勤めている。
就労移行支援	知的障害	対人関係等	就職後は、アフターとして、月1回のOB会、職場訪問を実施し、離職に対する相談支援を行い、離職された方もいるが、継続して就労しておられる方もいる。
就労移行支援	知的障害	忙しさについていけず、しんどくなったため	もう一度、通所を再開した。3年かけて、その方は、また、就職されました。ゆっくりと進めました。
就労継続B型	知的障害	不況によるリストラ	パート勤務による雇用で、最終は雇用と思っていたが、不況により解雇
就労継続B型	脳挫傷による身体障害	対人関係	
就労移行支援	知的障害	業務のミスマッチ（本人の訴え）	離職後の本人の身の振り方について（他の事業所を利用）
就労移行支援	知的障害	本人事由	現在の職務内容や人間関係等の悩みについて、転職の相談など
就労継続B型	知的障害	就職先の倒産	就職しているところが倒産し、行くところがないとのことで相談に来られ通所されることとなった。
身障通所授産	身体障害	人間関係（コミュニケーションの問題を含む）	当施設が窓口となり、受け受け、同一法人内の情報提供施設と連携し、相談、手話通訳派遣等に対応
身障通所授産	身体障害	有期限雇用（平成21年11月～平成22年3月）	離職後、施設再利用（平成22年4月～）。就労支援の結果、23年1月～就職決定。
身障通所授産	聴覚障害	不明	離職して無職で現在、就職活動はしているが、なかなか決まらず、行き先もないため、通所しながら再び就職を目指したい。⇒定員がいっぱいのため、同法人の別の施設を紹介。現在、通所中。

知的通所授産	知的障害	先方の事情による（経営不振）	解雇された4人の内、3人は当施設から他企業へ就労支援を行い（現在も就労中）、残り1人は当施設を利用しながら一般就労を目指して訓練中である。
知的通所授産	知的障害	景気悪化によるリストラ	再就職に向けての相談。職業相談室や就業生活支援センター、地域生活支援センターとの連携。本年、ホテルに再就職するものの、再度、解雇。その後施設の対応にて、他の施設にて清掃業務に就く。
知的通所授産	知的障害	金銭トラブル(同僚から金銭を借りた)	金銭の管理等、生活上での相談支援を行い、区社会福祉協議会等との連携。最終的に他の施設（就労移行支援事業所）利用に至る。
知的通所授産	知的障害	景気が悪くなって離職	10年程前、景気悪化に伴い、施設に戻った方が2～3名いる。
地域活動支援センター・知的	知的障害	健康が崩れた。精神的負担感が増えた。リストラ。	職相、福祉事務所CW等、関係機関と連絡を取り合い、再就職となり、当施設から就労につなげる。
地域活動支援センター・知的	知的障害	対人関係のトラブル	親が相談に来られ、当事業所の利用となりました。また、別の方はケースワーカーと相談に来られて、当事業所の利用となりました。
精神通所授産	精神障害	対人関係で嫌になった	2年間午前5時30分から午前8時30分の短時間労働をしていたが、仕事に慣れた頃から周囲の人が気になり、仕事がしんどくなりやめることにした。もう少し頑張るように話したが退職し、次の短時間仕事を探すことにし、生活のリズムや対人関係の改善のため現在作業所を利用している。
地域活動支援センター・精神	精神障害	会社全体の仕事が少なくなり、離職	今までと違う職種を探すことを一緒に検討し、今、やってみたいことを一度、一緒に探すことをやってみよう話し合う。
地域活動支援センター・精神	精神障害	具合が悪くなり離職	
地域活動支援センター・精神	精神障害	体調不良	離職後、医療機関と相談しながら職場開拓を行い、アルバイトから雇用に結びつ

			けた（22年4月～）。現在事業所と医療機関、本人の間に入って課題の整理を行っています。
地域活動支援センター・精神	社会不安症	仕事のスピード、人の動きに緊張	当施設の就労支援（職場体験、喫茶店）体系で、もう一度リラックスしてやり直すよう勧めた。

障害者(緊急)就職面接会の概要について

- 1 日 時 平成22年12月22日(水) 13時30分～16時
- 2 場 所 京都テルサ第1会議室
京都市南区新町通り九条下ル
- 3 主催者 京都労働局、ハローワーク(西陣、七条、伏見、宇治、田辺各所)
京都障害者職業相談室、京都府
- 4 対象者 (株)ジャパン・プランニング・サービス離職者のうち障害者
及び各安定所で求職登録している障害者のうち緊急を要する者

5 実 績

- | | |
|----------|------------------|
| (1) 求人企業 | 4社 |
| (2) 求人件数 | 5件 |
| (3) 求人数 | 5人 |
| (4) 参加者数 | 25人(うちJPS離職者16人) |
| (5) 就職者数 | 3人(うちJPS離職者2人) |